

日本基督教団 八ヶ岳伝道所 復活後第三主日礼拝 NO.1169 2021年4月25日

	牧師 山本護	奏楽 花曲琴音	第一部礼拝	司式 青柳均	9:30~10:30
	※讃美は二番まで歌います		第二部礼拝	司式 清水由可	11:00~12:00
前	奏 黙想		祈 禱		
頌	栄 539 あめつちこぞりて		讃 美 歌 162 あまつみつかいよ		
祈	禱		献 金		
聖	書 詩編 13:1~6		讃 詠 547 いまささぐるそなえものを		
	使徒言行録 1:9~11		黙 禱		
讃 美 歌	158 あめにはみつかい		主の祈り 564 聖なるかな		
説 教	『昇天の主を仰ぐ』		頌 栄 546		
	長崎 哲夫 牧師		祝 禱 後 奏		

これまで旧約五書の「礼拝」を読んだ。気付いたことはイエスの言葉や出来事は其処から色濃く反映されていたことだ。本日読むのは、異邦人福音史家ルカの第二書物行伝。ルカはシリアのアンテオケの人。「テオピロ」は神に愛された者の意で特定の人ではなく、キリスト者全般を指し、報告書につける形式を踏んだという見方あり。聖書に従えば、使徒パウロの伝道の労苦を共にし(16:11 等我ら章句)、医療術者(コリ4:14)。それ以上に母マリアの肖像を何枚も描いて方々の修道院等に贈り、女性像を描くに第一人者としてイエスの登場場面に観念的なもの最少、ルカ伝 1-2 章の詩歌は当代一級の自由な文化人を匂わした。

さて、行伝 1:3 に「四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された」とあった。四十日は、聖なる、キリストの、教会の意がある聖書の数、神の国は主ご自身である。此処に集まった人々は弟子たち、教会のことだ。とある日、食事中あるいは弟子たちが主と共にいた時のこと。主は弟子たちに向かい、「エルサレムを離れず、父の約束のもの、ヨハネの洗礼は水だったが、あなた方は間もなく聖霊の洗礼を受ける」と約束された。聖霊を受け、力を受けて地の果てまで主の証人になれるとの新しい言葉は彼らを震わせた。その日、イエスの昇天事件は、あの過越祭の折の復活後四十日目に起こった。この主を追って「彼らは天を見つめていた」。即ち目を見張り、凝視した(1:10)。彼らは己を顧みず主のお姿の一点一画も見落とさず、見逃さずそうした。信仰の意味は正にそれである。

本年の四十日後は 5 月 13 日で、その日が昇天日だ。教会がその意味するところを深く考える時だろう。

新約聖書における聖霊の第一の教えは、ヨハネ伝 14 章に豊かにある。彼らにイエスが去ってしまうことの不安があった。そのことを主は、「あなた方を孤児にはしておかない」(14:18)は同 18 の「聖霊が全てのことを教え、私が話しておいたことを全て思い起こさせる。心を騒がせるな、おびえるな」に繋がる。ルカが福音書と行伝を書いた時より 30 年前ロマ書等と共に書かれた第 3 の聖霊書簡は、コリント前書 15 の復活書簡 1:3-4 にある。其処に主の死・葬り・復活には、「聖書に書いてある通り」が二度添え書きされている。聖書が当時あったのではなく、何らかの教会伝承とか信仰告白書のことかも知れない。ただ他の福音書には主の復活は女性たちに顕現され、次いでケファ・ペテロ、次に十二使徒とあり、五百人以上の兄弟たちに同時に現れたことも他の資料の何処にも見られぬまま、中には既に死んだ人もいれば、現存の者がいると言いながら、復活が奇妙な噂話等ではなく、その証拠を見せている。

この書はその後ゼベダイのヤコブ、全使徒、そして最後に月足らずで生まれたようなわたしパウロにも現れたのだと。何故そんなことを言うのか。彼はシリアのダマスコまで主の弟子たちを捕縛するために追って行ったユダヤ人の取締官(行 9:1)。実際捕縛もしていた前科者だったからだ。だから使徒と呼ばれる資格なく、値打ち無き者、そういう者が生きて奉仕することが赦されるならば、それは主の恵みあればこそと伝道者パウロは言っている。(長崎哲夫牧師の説教要約)

本日 14:30~17:00 山梨分区総会(愛宕町教会)。山本牧師と青柳均役員が出席します。5/2 礼拝後に役員会。5月6月7月は長崎牧師に毎月説教していただき、それ以降は隔月に一度お願いしています。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HP は「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。